

## 【2022 年度事業報告書】

### I 次代を担う青少年の健全な育成に資する事業（公益目的事業1）

#### 1. イオン チアーズクラブ(予算：1億2,500万円、実績：6,200万円)

##### (1) 地域での活動1

① 標 題：イオン チアーズクラブ通常活動

② 活動概要：自然や環境など興味や関心を持ち、考える力を育む場として、小中学生を中心に、国内396の店舗及び事業所、またはエリアを拠点に体験学習を実施。各クラブは「環境・社会」に関する独自のテーマに沿って活動を行い、1年間の成果を壁新聞に取りまとめている。

③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）

④ 参加対象：日本国在住の小学1年生から中学3年生までの児童・生徒

⑤ 重点取組：参加クラブ数の増加、新規プログラムの実施

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、上半期は、通常活動の代替となる全国統一企画として、夏にイオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール2022（応募作品数388作品）を実施。

集合活動が難しい中、イオンフィナンシャルサービス株式会社と連携し、開催場所近隣のチアーズクラブメンバー及び未就学児から小学生の子どもたちを対象とした金融教育の体験プログラムを2022年8月より開始。

第1回 8月13日（土）、14日（日） イオンモール幕張新都心

第2回 2023年2月25日（土）、26日（日）イオンモール福岡

お金と支払い方法の歴史について学習し、キャッシュレス決済の利便性について学んだ後、実機を使ったレジ打ちの体験や電子マネー、手のひらや顔の情報を個人認証に使う新しい決済体験を実施。

9月には、ウエルシアホールディングス株式会社がチアーズクラブを発足させ、茨城県つくば市を拠点に2023年3月までに4回の活動を行った。

株式会社カスミは、2023年4月のクラブ発足に向け、本社のある茨城県つくば市で新規メンバー募集を行い、37名のメンバーが入会。

「食の循環」をテーマに、実施プログラムの計画を進めた。

##### (2) 地域での活動2

① 標 題：イオン チアーズクラブ農業体験プログラム

② 活動概要：単日で農作物の収穫体験ができる農業体験プログラムを実施。

③ 実施期間：2022年4月1日（金）から2023年3月31日（金）

④ 参加対象：イオンチアーズクラブに加入している小中学生

⑤ 重点取組：全国7エリア、10農場で全16回開催

（2021年度は全国3エリア、4農場で全5回開催）

年間を通して子どもたちが季節ごとの農作物を育てる体験が出来る企画（チアーズ農園）を2023年度の開始に向け準備。

#### 2. 中学生作文コンクール（予算：2,000万円、実績：2,000万円）

① 標 題：イオン中学生作文コンクール

② 活動概要：全国の中学生が、社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力を養うことを目的として作文を募集し、表彰するもの。2022年度は、「持続可能な食」をテーマとして募集を実施。表彰式は、11月26日（土）、千葉市内にて実施。

各賞：金賞 食育ツアーに招待・図書カード贈呈5万円（10名）

銀賞 図書カード贈呈3万円（10名）

参加賞 図書カード贈呈1千円（100名）

後援：農林水産省、文部科学省

③ 募集期間：2022年7月22日（金）～9月11日（日）

④ 参加対象：日本国内に在住の中学生

⑤ 重点取組：事前にオンライン講義を行い、応募者が自主学習を行うことで、作文の内容が充実するよう働きかけを行った。コンクールの周知については、各都道府県の教育委員会、こどもエコクラブ、イオンチアーズクラブ等を通じて、全国の中学校に募集の告知を実施。結果、全国112の中学校、2,002名の応募実績となった。

表彰式には金賞受賞者とその家族を招待。式の終了後、受賞者は都内で行われた1泊2日の食育ツアーに参加。

入賞者20名と金賞受賞10作品の全文、及びこのコンクールの内容について、2023年2月12日（日）発行の「朝日中高生新聞」に掲載。

### 3. イオン エコワングランプリ（予算：4,400万円、実績2,030万円）

① 標 題：第11回 イオンエコワングランプリ

② 活動概要：全国の高校又は高校生が日ごろ取り組んでいる環境活動について発表を行い、表現力や発信力が向上することを目指すコンテスト。内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞など各賞の表彰を行い、受賞校に賞状と活動奨励金を授与。また、応募内容を事例集としてまとめ、ネット配信と全国の高校への配布により、環境活動の普及、拡大を図る。

【2022年度実施概要】

a. 募集部門：「普及・啓発」「研究・専門」

b. 目的：SNSの活性化を推進し、高校生同士の情報交換、好事例の共有等が頻繁に行われるような環境を築き、環境保全活動校の定着と拡大を図るもの。

c. 主催：（公財）イオンワンパーセントクラブ

d. 共催：（公財）イオン環境財団、毎日新聞社

e. 後援：内閣府、文部科学省、環境省

f. 協力：全国高等学校長協会、（公財）産業教育振興中央会  
特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議  
（ESD-J）

③ 実施期間：2022年 7月14日（木）～9月22日（木）募集

2022年10月 7日（金） 1次選考

2022年11月 9日（水） 2次選考

2022年12月 3日（土） 最終審査会、表彰式

④ 参加対象：全国の高等学校または生徒

⑤ 重点取組：99校、112点の応募について、第1次選考、第2次選考が行われた後、最終審査会には12校が参加し、毎日新聞社本社等にて発表を実施。内閣総理大臣賞をはじめ、6校が表彰された。最終審査結果の報告については、各参加校に迅速かつ確実に情報が伝わるよう、毎日新聞朝刊への掲載から各校へのメール送信、及びネット配信に切り替えた。

#### 4. 学校建設支援（予算：2,000万円、実施見合わせ）

① 標 題：ミャンマー学校建設支援事業

② 活動概要：2012年から2021年までの9年間で66校の建設支援を行ってきたが、未だに同国の地方各州には支援が及んでいない状況にある。東部カレン州において、2019年度より3年間で15校の建設支援を行うとともに、公益財団法人日本ユニセフ協会と連携し、本事業で2012年から2015年に建設支援を行った同州コーカレイ村の小学校について、教員研修の支援を実施する計画。全国募金を行い、これに合わせて支援金を拠出する計画であったが、現地の地政学的リスク等により計画通りの支援活動は困難とのユニセフ側との共通認識のもと、実施を見合わせた。

#### 5. イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

（予算：4,000万円、実績：5,580万円。寄付金以外の諸経費を含む。）

① 標 題：イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

② 活動概要：カンボジア、ミャンマーにおいては、汚れた水や衛生環境が、子どもたちの命に関わる重大な問題の一つとなっている。また、当財団が学校建設支援を進めてきた地域では、小学校高学年（4年、5年）になると、学校での欠席率が上昇するが、その原因は、清潔な水を得るために子どもたちが水汲みを家事の手伝いとして行っていることにある。本キャンペーンを通じ、そのような国や地域に対して、給水施設の設置等により、清潔で安全な水を供給することで、子どもたちを教育面、健康面から支援するもの。

③ 実施期間：2022年5月9日（月）～2022年5月30日（月）

④ 対象地域：カンボジア：コンポンスプー州、ラタナキリ州、スヴァイリエン州、タケオ州  
ミャンマー：カレン州

以下の内容で全国募金を実施。

募金活動名	：イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン
実施場所	：イオングループ店舗及び事業所約9,000カ所
贈呈先	：公益財団法人 日本ユニセフ協会
募金目的	：カンボジア、ミャンマーにおける給水施設等支援
店頭募金	：1,978万4,040円
拠出金	：1,978万4,040円
天然水	：1,548万9,775円（1本当たり5円）
寄付金総額	：5,505万7,855円
募集理由	：水汲みを中心とした家事手伝いに追われ学校を欠席しがちな子どもたちが暮らす村や町に、給水施設を設置することで、子どもたちを教育面、健康面から支援。
資金使途	：給水施設や衛生施設などの設置支援に全額を充当。
その他	：募集総額に当財団が一定額を上乗せ加算し、給水施設支援に充当。

⑤ 重点取組：カンボジア大使館で贈呈式を実施。

イオントップバリュ(株)から、募金期間中に販売した天然水1本当たり5円、総額1,548万9,775円の寄付を受け、店頭募金、当財団からの拠出金と併せて寄付を行った。

## II 諸外国との友好親善の促進に資する事業（公益目的事業2）

### 1. ティーンエイジアンバサダー（予算：1億1,000万円、実施見合わせ）

- ① 標 題：日本 中国 ティーンエイジ アンバサダー
- ② 活動概要：日本と中国の高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、歴史・文化活動を通じて価値観の多様性を認識するとともに、国際的な相互理解と親交を深めるもの。  
「日中国交正常化50周年」事業として、外務省より認定を受けていたが、新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、海外への渡航制限も続いていたため、中国側の事務局である北京市人民政府と協議の上、実施を見合わせた。
- ① 標 題：日本 アセアン ティーンエイジアンバサダー
- ② 活動概要：日本とアセアンの高校生が相手国を相互訪問し、表敬活動、交流活動、歴史・文化活動を通じて、価値観の多様性を認識すると共に、国際的な相互理解と親交を深めるもの。  
新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、在マレーシア日本大使館及びマレーシアと日本の参加校と協議した結果、未だ感染リスクが高いものと判断し、実施を見合わせた。次年度に交流国の見直しを含めて再度計画。

### 2. アジア ユースリーダーズ（予算：3,000万円、実績：2,020万円）

- ① 標 題：アジア ユースリーダーズ
- ② 活動概要：日本を含むアジア8カ国の高校生が、各国に共通する環境、経済、社会の問題について、講義を受けた後、英語で議論と発表を行うプログラム。  
参加者たちが、グローバル感覚を養い、価値観の多様性を学ぶとともに、問題解決力や自発的な行動力を高めることを目的とするもの。
- ③ 実施期間：2022年8月23日（火）～25日（木）（オンライン）
- ④ 参加対象：カンボジア7名、中国7名、インドネシア7名、日本21名、ラオス7名、マレーシア7名、タイ7名、ベトナム7名、計70名
- ⑤ テーマ：「食べ物から考えよう、環境のこと」
- ⑥ 重点取組：2021年度から3年間、「脱炭素社会の実現に資する持続可能な食の未来づくり」を主題とし、2年目の2022年度は、参加高校生にとって身近な食べ物と地球温暖化との関連性について学び、改善提案を行うプログラムとした。植物由来の商品の開発や昆虫食の普及に向けた取り組み事例等について受講後、チームディスカッションを行い、改善提案を発表。加えて、参加者各人が改善に向けた自らの行動宣言を発表した。

### 3. イオン スカラシップ（予算：2億450万円、実績：1億8,300万円）

#### （1）日本での奨学金

- ① 標 題：イオン スカラシップ（国内）
- ② 活動概要：日本の大学で学ぶアジア各国からの私費留学生に対して、給付型奨学金を支給するもの。奨学生1名について、授業料全額と生活費10万円（月額）を支給し、給付期間は原則として2年間。併せて、奨学生同士の交流や宿泊研修プログラム、ボランティア活動等を実施。  
将来、自分の出身国と日本との架け橋として活躍したいと考える奨学生たちを

応援することを目的としている。

- ③ 実施期間：2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)
- a. 新規生選考 5月中旬～下旬  
各大学から推薦された候補学生の中から、外部選考委員による委員会にて決定。ただし、国際大学は「渡日前選考方式」により奨学生を決定。
  - b. 認定証授与式 7月16日(土)(イオンタワー3F多目的ホール)  
授与式終了後、翌17日(日)まで第1回セミナーを実施。
  - c. 第2回セミナー 11月26日(土)千葉県九十九里浜植樹体験  
(現地にて集合開催)
  - d. 第3回セミナー 1月14日(土)就活応援(オンライン開催)
  - e. 修了式 2月17日(金)修了式(都内にて集合開催)
- なお、認定証授与式、スカラシップセミナー及び修了式は、体調管理のチェックと抗原検査を事前に実施。
- ④ 対象大学：北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、東京工業大学、早稲田大学、上智大学、慶應義塾大学、国際大学、名古屋大学、京都大学、神戸大学、流通科学大学、九州大学  
計14大学 新規認定33名、認定済25名 計58名
- ⑤ 重点取組：中国・アセアンにおける提携大学の受給生、もしくは日本留学中の在学生のニーズについて掘り起こし、新たな支援につなげる取り組みを実施中
- ⑥ 予算：1億4,000万円、実績：1億2,510万円

## (2) 中国での奨学金

- ① 標 題：イオン スカラシップ (中国)
- ② 活動概要：中国国内で学ぶ大学生に給付型奨学金の支給を行うもの。支給内容・額については、各地域の経済・物価事情に合わせ、各大学と協議の上、決定。毎年11～12月に各大学で認定証授与式を実施。  
また、奨学金事業の一環として、毎年5月に当財団の冠名で、北京大学、北京第二外国語学院、中国海洋大学、青島大学、深圳大学、清華大学、武漢大学で日本語スピーチコンテストを開催。上位入賞者は訪日の上、研修を実施。
- ③ 実施期間：2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)
- a. 日本語スピーチコンテスト  
武漢大学：5月20日(金)、青島大学：5月27日(金)  
北京大学：5月27日(金)、中国海洋大学：6月2日(木)  
北京第二外国語学院：6月7日(火)  
深圳大学：6月10日(金)、清華大学：11月10日(木)
  - b. 日本語スピーチコンテスト上位入賞者訪日研修  
2022年8月3日(水)～2022年8月5日(金)(オンライン)
  - c. 奨学金支給対象期間  
2022年9月1日(木)～2023年8月31日(木)
  - d. 奨学金認定証授与式  
清華大学：11月10日(木)、南開大学：12月1日(木)、  
中国海洋大学：12月8日(木)、深圳大学：12月9日(金)、  
中山大学：12月15日(木)、北京大学：12月16日(金)、

北京第二外国語学院 : 12月20日(火)、

青島大学 : 12月22日(木)

武漢大学は、新型コロナウイルス感染拡大により延期。

- ④ 重点取組 : 本奨学金事業の一環として各大学で開催している日本語スピーチコンテストについて、一部の大学では感染症対策に十分留意しながら、参加者が各会場に集合する形で開催。学外審査員がオンラインで審査を実施。また、上位入賞者の中で、日本で学びたいが経済的な理由で学ぶことができない(中国人)学生について支援策を検討。

- ⑤ 予 算 : 4,000万円、実績 : 4,050万円

### (3) アセアンでの奨学金

- ① 標 題 : イオンスカラシップ(アセアン)

- ② 活動概要 : アセアン各国内で学ぶ大学生に給付型奨学金を支給するもの。支給内容・額については、各国の経済・物価事情に合わせ、各大学と協議の上で決定。各国ともに12月を目途に授与式を実施。当財団の事業活動が奨学生の居住地域で実施された場合に参加を要請し、友好親善を促進するもの。

- ③ 実施期間 : 学生選考9~12月(\*各地域の新学期開始時期に合わせたもの)  
各国ともに、各大学からの推薦を受けて選考を実施。

- ④ 対象大学 : 国別大学名および支援内容

タイ : 給付人数 32名

チュラロンコーン大学16名、タマサート大学16名

認定証授与式 : 11月29日(火)

ベトナム : 給付人数 100名

ホーチミン人文社会科大学10名

ホーチミン教育大学 10名

ホーチミン経済大学 20名

認定証授与式 : 12月7日(水)

ハノイ人文社会科大学 20名

ハノイ貿易大学 20名

ベトナム国家農業大学 20名

認定証授与式 : 12月6日(火)

インドネシア : 給付人数 24名

インドネシア大学12名、ボゴール農科大学12名

認定証授与式 : 11月30日(火)

カンボジア : 給付人数 23名

王立プノンペン大学11名、国立経営大学12名

認定証授与式 : 12月8日(木)

ミャンマー : 給付未実施

現地の情勢が不安定で、奨学金対象者選考が出来なかったため、実施を見合わせた。

- ⑤ 重点取組 : 大学ごとの支援人数、対象学年、支給額格差などに関する見直しを実施。アセアン各国においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動制限が緩和に向かったため、各大学の構内に奨学生が集まり、認定証授与式を実施した。(ミャンマーを除く。)

- ⑥ 予 算 : 2,450万円、実績 : 1,790万円

### Ⅲ 地域社会の持続的発展に資する事業（公益目的事業3）

#### 1. ふるさと未来支援（予算：9,550万円、実績：5,720万円）

##### （1）地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

① 標 題：地域文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援

② 活動概要：日本各地の地域固有の伝統行事・文化・工芸技術の普及啓蒙・継承支援。

特に後継者育成に向け、青少年向けの広報・実技披露活動等を支援。

支援案件は公募に申込みがあった案件の中から、外部委員による選考委員会にて決定。

（支援基準）

1）次代に継承すべき地域独自の文化、伝統行事、社会行事であること。

2）次代を担う青少年に継承されるべきものであること。

3）特定企業・団体の販促イベント的なものでないこと。

③ 実施期間：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）

④ 参加対象：日本国内の行事・文化継承事業運営者、ならびにその団体

⑤ 重点取組：該当支援事業内での当財団の取り組み紹介の強化を図った。支援対象は79団体であったが、夏季に実施を計画していた行事等に取りやめたものがあり、実績は63団体に留まった。

##### （2）イオンすくすくラボ

① 標 題：イオンすくすくラボ

② 活動概要：各地域の子育て世代の親子を対象に、育児に関するセミナーの開催や個別相談と古き良き日本の童謡・唱歌の継承を目的としたコンサートの二部で構成。開催地域内の未就園児（0～3歳児）とその家族が対象  
（内容）

第一部：子育てセミナー 第二部：童謡・唱歌コンサート

新型コロナウイルス感染拡大により、実施を見合わせた。

#### 2. 災害復興支援（予算：2億2,550万円、実績：1億8,040万円）

##### （1）緊急災害復興支援

① 標 題：緊急災害復興支援

② 活動概要：自然災害を中心とした災害による被災地域・被災者の、被災前の日常への復興復帰を支援するもの。

③ 実施期間：2023年2～3月

④ 支援対象：トルコ南東部地震の被災者

⑤ 支援内容：2月14日（火）、駐日トルコ大使館に対し、支援金1,000万円を寄付  
3月10日（金）、" 毛布6,000枚、寝袋2,000枚（5,413万5,000円相当）を寄付  
2023年3月30日（木）付の毎日新聞朝刊にて、支援の様子を対外発信

⑥ 予 算：1億2,500万円、実績：7,580万円

（※上記支援以外に支援実績なし。）

## (2) 首里城復興支援

- ① 標 題 : 首里城復興支援
- ② 活動概要 : 2019年10月31日(木)未明に発生した大規模な火災により、甚大な被害を受けた世界遺産の首里城(沖縄県那覇市)の再建を支援。復興支援金の贈呈式を実施。  
10月31日(月)、沖縄県に復興支援金1億円を贈呈(5か年計画の3年目)。首里城正殿復元工事着工に伴う記念イベントに合わせて、首里城を描いたポスターのコンクールと優秀作品の展示、及び首里城の木材を再利用したワークショップを実施
- ③ 予 算 : 1億50万円、実績 : 1億460万円

## 3. 公益法人への支援(予算:2億3,900万円、実績:1億8,480万円)

### (1) 青少年育成活動団体への支援

- ① 標 題 : PMF札幌の支援
- ② 活動概要 : 公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会へメインスポンサーとして協賛。
- ③ 実施期間 : 2022年7月16日(土)~8月2日(火)
- ④ 支援対象 : 公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
- ⑤ 予 算 : 1,000万円、実績 : 1,000万円

- ① 標 題 : セイジ・オザワ松本フェスティバルへの支援
- ② 活動概要 : セイジ・オザワ松本フェスティバルを支援。当財団はプラチナ会員。
- ③ 実施期間 : 2022年8月13日(土)~9月9日(金)
- ④ 支援対象 : 公益財団法人 サイトウ・キネン財団
- ⑤ 予 算 : 500万円、実績 : 500万円

- ① 標 題 : 仙台国際音楽コンクールへの支援
- ② 活動概要 : 公益財団法人 仙台市民文化事業団に対し、特別協賛。
- ③ 実施期間 : 5月19日(木)~6月26日(日)(※3年に1回の実施)
- ④ 支援対象 : 公益財団法人 仙台市民文化事業団
- ⑤ 予 算 : 300万円、実績 : 300万円

- ① 標 題 : ウクライナ子ども救済支援
- ② 活動概要 : 避難生活を送るウクライナの子どもたちに対して、少しでも生活の不便さを和らげることが出来るよう寄付を実施。  
この寄付金は、公益財団法人日本ユニセフ協会経由でユニセフ(国連児童基金)を通じ、水や緊急用薬品、防寒用品、学用品、玩具などに充てられるもの。
- ③ 実施日 : 2022年6月9日(木)
- ④ 支援対象 : 公益財団法人日本ユニセフ協会
- ④ 支援金額 : 1億6,665万6,366円(予算は1億7,000万円にて計画)



#### IV. 管理費（法人会計）

##### 1. 広報活動（予算：9,800万円、実績：7,160万円）

###### （1）概要書及びDVD

- ① 標 題：各種活動報告書及び媒体物等の制作
- ② 活動概要：概要書は、イオン1%クラブの創設趣旨や事業目的の説明に重点を置き、象徴的な写真を見開きで見せることで、事業内容をわかりやすく伝えるもの。英語版・中国語版も制作。配布先・設置先の拡大を図る。これを補完する形でリーフレット等の刊行物、動画、演出物等を企画・作成し、当財団と事業活動の認知度向上を図るもの。
- ③ 実施期間：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）
- ④ 配布対象：事業参加者、学校関係、各国大使館、各省庁、NPO・NGO、取引先、寄付企業、マスコミ他
- ⑤ 重点取組：概要書については、昨年度のトピックを盛り込みつつ、当財団の創設趣旨や事業目的が正しく伝わるよう紙面内容を構成し、かつ、スマートフォンで見やすいレイアウトに変更。  
概要書を補完し、イオン1%クラブの活動内容をタイムリーにわかりやすく伝えることを目的として、「イオン1%クラブ」を2023年2月に刊行。事業参加関係者や寄付者を中心に配布先・設置先の拡大を検討。イオンチアーズクラブの紹介動画を作成し、対外周知を図るとともに、各社・各地域における新規会員募集の促進に活用。上記取り組みに際し、各事業のビジョンやターゲット、演出方法等について、検討を実施。

###### （2）ホームページ

- ① 標 題：ホームページの更新
- ② 活動概要：タイムリーな更新を図り、更新頻度を高めることで、ページ訪問者の滞在時間を延ばし、各事業の報告ページのPV（ページビュー）数を高めるもの
- ③ 実施期間：随時（通年）
- ④ 参加対象：ネット閲覧可能者
- ⑤ 重点取組：Facebook、LINE、Instagramと連動させ、ホームページ訪問者を増やすことを目的に、WordPress（ホームページ更新用ソフト）をトップページのみから全ページに導入。深い専門知識がない担当者でも更新作業が出来る形に変更することで、コスト削減と更新のスピード化を図った。

###### （3）外部イベント参加費

- ① 標 題：イベント出展を通じたPR活動
- ② 活動概要：各国のフェスティバル、NGOや社会貢献活動団体等を対象としたイベント等に出展し、当財団の活動PRを行うもの。
- ③ 実施期間：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）
- ④ 参加対象：イベント参加者、各国大使館、各省庁、NPO・NGO等
- ⑤ 重点取組：大使館や各省庁が主催するイベントへ参加することで連携強化を図ったが、新型コロナの感染拡大により、通常の規模での出展は、ベトナムとカンボジアの駐日大使館主催フェスティバルのみに留まった。

2. 団体会費(活動支援の寄付として)

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| (1) ジャパンプラットフォーム   | 予算、実績ともに30万円 |
| (2) 公益財団法人花と緑の農芸財団 | 予算、実績ともに22万円 |
| (3) 公益財団法人公益法人協会   | 予算、実績ともに12万円 |

以上